

4. SPSS コマンド・シンタックスの一般的規則

5章以降で、いよいよシンタックス・エディタ上でプログラムを作成することになります。ここでは、個々のコマンドの説明に先立って、SPSS のすべてのコマンド・シンタックスに共通する一般的規則について、まとめておきます。

①コマンド・シンタックスは原則として半角英数字で構成されています。英字は大文字でも小文字でもかまいません。

②スペースは原則として半角で入力します。スペースはいくつ打ってもかまいません。

③コマンドは複数行に渡ってかまいません。

④複数行に渡る時の改行は、スペースの打てる場所でおこないます。

⑤一行の文字数は自由ですが、画面表示や印刷出力などとの関係を考えて、80 桁以内にとどめておいた方がよいでしょう。改行をうまく利用して、見やすいコマンド・シンタックスを構成することが、ミス減らすコツです。

⑥コマンドの最後にはピリオドを打ちます。ピリオドによって一連のシンタックスの終了が示されるので、ピリオドがないと、つぎのコマンドとの区別がつかずエラーとなります。

要は、英作文と同じです。単語が二行に渡らないように、文章を書く感覚で OK ということです。

【よくあるエラー①】

1)スペースを全角で打つてあると、エラーになります。これはいちばん発見しにくいエラーです。

2)ピリオドを忘れると、エラーになります。